

D-9 「悩み」よりみた思春期女児の成熟過程

大妻女子大家政 〇千羽喜代子 手井俊義

女児の心身発達の相関に関する研究の一貫として、昭和43年より、毎年1回、計3回にわたる「悩み」の調査を、都内某校（小・中・高）2校（そのうち、1校は共学校、他の1校は女子校）の生徒について行ない、思春期女児の精神的成熟の段階を明確にとらえようとした。調査は、文書相談の方法をとり、「からだ」および「こころ」に関して、相談したいこと、困っていること、悩んでいること、自発的に記入してもらい、希望する者には、その後において、文書による返答、さらには面接相談を行なった。

結果

1) 小学校4年生から高校3年生までの対象のうち、13才～14才（中学2年生）が、最も多く悩みを訴えている。また、男児よりも女児の方が訴える数が多い。

2) 悩みの内容としては、「からだ」と「こころ」の両方に関するものが多いが、「からだ」にのみ悩みを持っているものも約4分の1ある。

3) 「からだ」に関する訴えには、自己の発育・容姿・二次性徴、「こころ」に関しては、友人関係・異性関係・自己批判が多いが、それらが内面化していく過程をとらえてみると、精神的成熟の段階を知ることができる。